



6 地域財産等の活用

園は地域社会を離れては存在し得ないものです。近くにある自然の多い場所や高齢者のための施設への訪問、地域の行事への参加や地域の人々の園訪問などの機会も、幼児が豊かな人間性の基礎を培う上で貴重な体験を得るための重要な環境になります。

台東区は歴史や伝統文化、季節の折々の地域行事が豊かです。近隣の園、小学校、図書館などの社会教育施設、園の教育活動に協力していただける方々などを含めて、園を取り巻く地域財産等を十分に活用する保育・教育課程を編成することが大切です。

地域財産等の活用の視点

人

人とかかわる体験や交流、ふれあい

地域の人たちとのかかわりを通して、人は周囲の人たちとかわり合い、支え合っているのだということを実感します。日常の保育・教育の中で、地域の人々や障害のある幼児などとの交流の機会を積極的に取り入れることも必要です。とりわけ、高齢社会を生きていく幼児にとって、高齢者と実際に交流し、触れ合う体験をもつことは重要になります。



はっけよい！紙相撲！

自然

自然と触れ合い季節感を取り入れた生活

自然と触れ合う体験を十分に得られるようにするためには、園内の自然環境の整備に加えて、地域の自然を有効に活用し、自然と触れ合う機会、幼児が身近にかかわる機会をつくるのが大切です。園内外の自然に日常的に触れ、季節感を取り入れた生活を体験することを通して、季節により自然や地域の人々の生活にも変化があることに幼児なりに関心をもつようにすることが大切です。



自然豊かな公園で遊ぶ

地域行事

伝統行事や文化に触れる豊かな体験

永年にわたって培われ、伝えられた文化や伝統に触れる中で、地域が長い歴史の中で育んできた伝統や文化の豊かさに気がきます。また、地域の祭りや行事に参加して、幼児が自分たちの住む地域に一層親しみを感ずることもあります。このように行事などを通して地域の文化や伝統に十分触れて、豊かな体験をすることや秋の収穫に感謝する祭り、節句、正月を迎える行事などの四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつことは季節感を味わう点からも大切です。



地域の伝統行事を体験

施設

公共施設で興味・関心を広げる

図書館や高齢者福祉施設などの様々な公共の施設を利用したり、訪問したりする機会を設けて豊かな生活体験を得られるようにすることが大切です。公共の施設などを利用する際は、幼児の生活にかかわりが深く、幼児が興味や関心をもてるような施設を選択したり、訪問の仕方を工夫したりする必要があります。また、公共施設がみんなのものであり、大切に利用しなければならないことを指導することで公共心の芽生えを培っていくことも大切です。



動物園で本物にふれる

貢献

地域で人の役に立つ体験

幼児は「〇〇してあげる。」という言葉を好んで使い、何かを手伝いたがります。相手に喜ばれたり、よくやってくれたと感謝されたりすることにより、自分が有用な人間であることを自覚し、もっと人の役に立ついろいろなことができるようになっていこうと思うようになっていきます。将来のボランティア精神の基盤となる人の役に立つ喜びを幼児期に経験させるために、園だけでなく、地域のなかでの簡単な手伝いをするなど、他者の役に立っているという満足感を得られるようにすることが大切です。



地域の花植え活動

直接体験

直接的、具体的、心を揺り動かす体験

情報化社会の中では幼児も多くの間接情報に囲まれて生活しています。自然と触れ合ったり、地域で異年齢の子供たちと遊んだり、働く人々と触れ合ったり、高齢者をはじめ幅広い世代の方々と交流したりするなどの直接的、具体的な体験が少なくなっています。地域の人々や教育的な資源、地域財産などを活用して、幼児の心を揺り動かすような体験が得られる機会を設けていくことが大切です。



親子で吟行!

安全

安全教育

災害時の行動の仕方や不審者との遭遇など、様々な犯罪から身を守る対処の仕方を身に付けさせるために、基本的な対処の方法を確実に伝えるとともに、家庭や地域社会、関係諸機関などと連携して安全について学ぶ機会を設け、幼児の安全を図る必要があります。火事や地震を想定した避難訓練は地域や町会、公共施設などとの連携を踏まえて年間計画の中に位置付け、災害時には指示に従い一人一人が落ち着いた行動がとれるようにすることが重要です。地域防災の視点も含め危機管理マニュアルなどを作成しておくことが大切です。



交通安全教室

伝える

地域での体験を伝える、地域の人々へ伝える

幼児が心を動かされる体験の場は、園だけではなく、家庭や地域でのそのような体験に親しみを感じている保育士・教員や友達に伝えることで次第に増えていきます。幼児が様々な体験を言葉で表現できるようになっていくためには、自分なりの表現が保育士・教員や友達、さらには異なる年齢や地域の人々など、様々な人へと伝わる喜びと、自分の気付きや考えから新たなやり取りが生まれ活動が共有されていく満足感を味わうようにすることが大切です。



体験を伝える

還元

地域の人々への還元

地域や地域の人々との交流を図る上で重要なことは、それが幼児の発達にとって有意義であることです。そしてまた、この機会が幼児とかかわる地域の人々にとっても、幼児に接することによって心がいやされたり、新たな意欲が出てきたりするなど、夢と希望が育まれることにつながり、有意義なものとなるのが大切です。



地域行事で獅子舞を披露

幼児が地域や周りの情報に関心をもつようになるためには、保育士・教員自身が興味深く見た自然、行事や文化財、地域の催しや出来事などの様々な情報の中から、幼児の生活に関係の深いものを適切に選択し、折に触れて提示していくなど、幼児の興味や関心を引き出していくことが大切になります。



重視する内容

地域財産等の活用 (例)

「身近にある地域財産を活用する」

3～5歳児

ねらい

- 地域の伝統文化や芸術に触れ、本物を知る
- 経験を通して、地域への誇りや愛着をもつ

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

経験させたい内容

- ◎昔話を通して、近隣の地域財産を知り、親しむ
- ◎伝承遊びを楽しむ
- ◎地域の多彩な文化財産を知り、本物に触れる経験をする
- ◎地域財産の活用を通して地域の人々と触れ合う

台東区の民話や伝承遊びに親しみましょう！

身近な地域の昔話を聞き、実際に訪問することで地域をよく知り、親しみをもつことができます。「台東区民話と伝承遊びの普及委員会」のご協力で実践しています。



普及委員の方からその民話を聞き、お話の場所にみんなで行くと、子供たちの心はわくわく！興味津々！空想の世界がどんどん広がり、子供たちの見たい、知りたい気持ちを刺激します。



魅力ある教育活動がたくさんあります！

- 俳句の会・・・親子吟行の取組をしています。正岡子規由来の「子規庵」や俳句の先生の協力もあります。
- お茶会・・・地域には茶道の先生も多数いらっしゃいます。礼儀作法もしっかり教えていただけます。
- お囃子・・・お囃子が盛んな地域柄を活かしてみましょう。地域を愛する心が芽生えます。
- 華道・・・幼児の頃から伝統美に触れることで、日本の美意識が育まれていくことでしょう。
- 獅子舞・・・伝統文化のすばらしさと奥の深さを体験します。子供たちは練習を重ね発表することで達成感を味わうことでしょう。



伝承遊びを取り入れましょう！

台東区民話と伝承遊び普及委員会作成の「台東区郷土かるた」や台東区発行の「台東区 むかしむかし お話と遊び I・II」を活用し、楽しみながら郷土、地域に親しむようにしましょう。

地域の様々な技能をもっている方々との交流

歌、フルート・クラリネット・バイオリンの演奏など、音楽家の方々が園を訪問しています。リトミック、手品、腹話術やフラダンスなどを専門とする地域の方々も子どもたちが楽しんで本物に触れる機会となっています。



上野の森には自然がいっぱいあります。四季の自然を見つけに出かけて見ましょう。

地域の文化・芸術財産などの活用

- 上野の森
- 上野動物園
- 国立科学博物館
- 国立西洋美術館
- 国立博物館
- 旧東京音楽学校奏楽堂
- 書道博物館
- 一葉記念館
- 国際こども図書館
- 区立図書館
- 下町風俗資料館
- 環境ふれあい館ひまわり

地域の図書館を活用していますか？「お話会」や「映画会」を実施しています。絵本の団体貸し出しもあります。



台東区には様々な文化・芸術財産があります。地域のお祭りや市なども豊富です。子どもたちと出かけてみましょう。たくさん発見ができるでしょう。

台東区の歴史は古く、多くの地域の文化・歴史、芸術財産が残されています。「台東区歴史・文化テキスト」に詳しく出ています。地域の文化・歴史を知ることは、保育・教育の計画を立てる際の参考になります。

《小学校につながる点》

- 様々な地域財産を活用し本物に触れることが、子どもの心を揺さぶり自ら考え追究していく、意欲を育てる。
- 地域の方々との交流を通して、地域を愛する心が育つ。



重視する内容 地域財産等の活用 (例)

「親子で遠足、上野動物園」

3歳児 5月

《ねらい》

○地域の伝統文化や芸術に触れ、親しむ。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

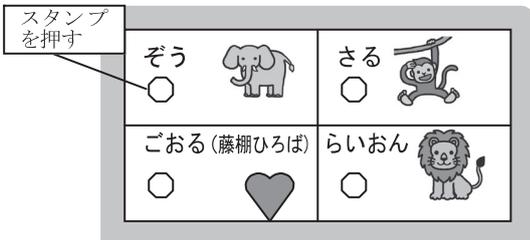
- ◎親子遠足を通して身近な地域財産を知り、親子で親しむ。
- ◎様々な動物の様子を見学し、親子で楽しみながら本物に触れる経験をする。

《活動の流れ》

- ・親子遠足で上野動物園へ行く。集合場所からクラスごとに動物を見ながら「藤棚ひろば」に移動し、荷物を置く。「スタンプラリー」の説明を聞いた後、親子で活動する。
- ・園で作った「ラリーカード」を使って、親子で様々な動物の様子を見て回る。
- ・「チェックポイント」で、保育者にスタンプを押してもらい。スタンプは、園で用意する。
- ・「ラリーカード」に3カ所の「チェックポイント」のスタンプを押してもらった後、集合場所の「藤棚ひろば」で保育者より「ゴール」のスタンプをもらう。

《環境》

- ・「チェックポイント」には保育者が立ち、親子の様子に気を配る。「藤棚ひろば」に本部を置く。
- ・3歳児に親しみやすい動物を選び、スタンプを押すことで楽しく回れるようにする。



「ラリーカード」(園で作成。かけやすようにひもをつける)

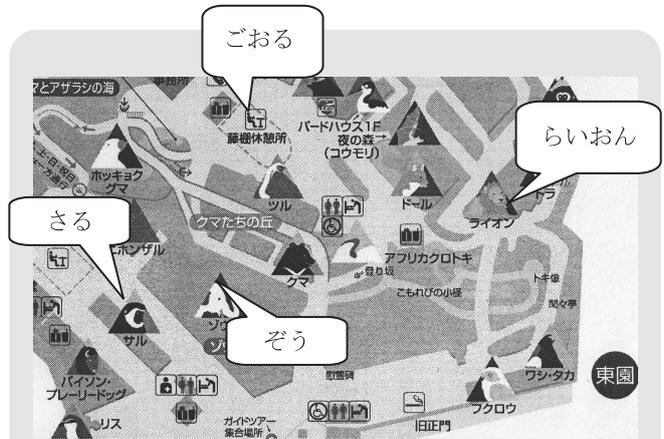
上野動物園では4歳児以上を対象に、動物に親しみをもち、じっくり観察するための「動物観察プログラム」があり教材の貸し出しを行っています。

◆クイズシートとスタンプのセット

スタンプラリーの形式で、クイズに答えながら5つの動物を見て回ります。事前に園で子どもたちと答えを予想しておくことで興味・関心を高めることができます。シートは家に持ち帰れるので、事後も余韻を楽しむことができます。

◆先生と一緒に！わくわく観察バッグ

両面パネルを見せながら保育者がクイズを出し、子どもたちが答えます。クイズに答えることで、さらに動物をよく見てみようという意欲が高まります。両面パネルは10枚ありますが、実態に応じてその場で使うパネルを選択することができます。



動物園の地図に「チェックポイント」を入れたもの



「わくわく観察バッグ」の両面パネルの例

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容に係る援助
<p>①動物園の東園表門で現地集合する。</p> <p>②クラスごとに動物を見ながら移動する。「藤棚ひろば」に荷物を置き、集まる。</p> <p>④「スタンプラリー」について説明を聞き、親子で一枚「ラリーカード」を受け取る。</p> <p>⑥親子で東園の動物を見て回る。</p> <p>⑦「チェックポイント」では、親子で会話を楽しみながら動物を見る。</p> <p>⑧動物を見て「大きい。」などとつぶやいたり、親子で話したり、歌ったりする。また、動物の様子をまねて動く子どももいる。</p> <p>⑫集合場所で最後のスタンプをもらおうと、保護者にうれしそうに見せたり、友達に見せたりする。保育者に見てきた動物の話をする。</p>  <p>⑬クラスごとに親子で弁当を食べる。</p> <p>⑮現地解散する。</p> <p>【後日の降園時】</p>	<p>③「スタンプラリー」について、簡潔に分かりやすく説明する。幼児一人一人の興味・関心に応じて活動するよう保護者に伝える。また、親子での活動になるので、危険のないよう、保護者に注意を促す。</p> <p>⑤「チェックポイント」や要所に立ち、親子の様子を見守る。初めてのことに不安を感じる子どももいるので、楽しく動物を見て回れるように個に応じて配慮する。</p> <p>⑨スタンプを押すことだけが目的にならないように「チェックポイント」では、「あ、おさるさんがお山に登った。速いねえ。」などと子どもが動物に興味をもてるような言葉を掛けるとともに、保護者にも伝えていく。</p> <p>⑩いろいろな動物を見て回りながら、気付いたことや感じたことを3歳児なりに行動や動きに出したり、親子で伝え合ったりする姿を認める。</p> <p>⑪集合場所では、「どんな動物を見たの?」「ぞう、大きかったね。」など見てきた動物について話し、スタンプを押す。</p> <p>⑭解散時には、安全に自宅まで帰るよう伝える。</p>
<p>【後日の降園時】</p>	<p>①後日降園時に、写真などを玄関附近に掲示して親子遠足について話すとともに、<u>近隣の文化施設「国立科学博物館」「国際子ども図書館」などについて概要や活用方法を保護者に知らせ、地域財産についての関心を高める。</u></p>

重視する内容 **地域財産等の活用**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

○3歳児の実態に応じた内容、時間等、配慮しながら、様々な地域財産を知り、本物に触れる経験ができるようにする。

◆小学校につながる点

- 様々な地域財産を活用し本物に触れることが、子どもの心を揺さぶり、自ら考え追求していく意欲を育てることにつながる。
- 地域の方々と交流することで、地域を愛する心が育つことにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 地域財産等の活用（例）

「酉の市に行ってきたよ」（酉の市の見学）

4歳児 11月

《ねらい》

○地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への興味・関心をもつ。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎地域の文化財を知り本物に触れる経験をする。
- ◎行き帰りに出会う人々と触れ合うことで「酉の市」の雰囲気を楽しむ。
- ◎行き帰りの交通ルールや人ごみの中での安全を学ぶ。

《活動の概要》

【事前】

- ・「酉の市」に行ったことのある子どもの話を聞いたり、いわれを平易な言葉で知らせたりする。
- ・「酉の市」までの道を歩いて下見をし、危険のないルートを決めておく。
- ・「酉の市」に行く日が分かるようにカレンダーに示し、子どもたちが期待をもてるようにする。
- ・お店のものには触らないことやお店の方とのかかわり方について子どもたちと話し合っておく。
- ・人出が多いので安全に気を付けることや、迷子になりやすいので注意することなどを話しておく。

【当日】

- ・園外に出掛けるときの約束事を確認してから出発する。可能ならば補助の職員を同行させる。
- ・交通量や人出が普段より多いので、付き添いの保育者は常に安全確認をしながら進むようにする。
- ・熊手の大きさや飾りの意味等に気付かせたり、地域の人とあいさつしたり、会話をしたりして触れ合いながら見学する。

《環境》



混雑しない時間帯に見学する。



《活動の展開》

子 ど も の 姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②「西の市」まで歩いていく。</p> <p>④「西の市」に到着する。</p> <p>⑥お店の方々にあいさつする。</p> <p>⑦各お店を見学する。 熊手等の品物に興味・関心をもちよく見ている。「これはどうなっているのかなあ?」「あれも見たいな。」等とお店の人に聞こうとしている。</p> <p>⑩「〇〇の飾りだ。」「この熊手大きいね。」などと話す。</p> <p>⑫「あっちもすごーい」等と夢中になり一人で行動しようとする。</p> <p>⑮見学させてもらったお店にお礼を言う。</p> <p>⑰園に戻り、留守番の保育者や異年齢の子どもたちに見てきたことを楽しそうに口々に話す。</p> <p>⑲降園時迎えの保護者に「西の市」の経験を話している子どももいる。</p>	<p>①歩き方など約束を確認してから出かける。</p> <p>③交通ルール等に気を付けながら歩いていけるよう声がけ等工夫する。付き添いの保育者は子どもたちの列のどこに付くかを決めておき危険を回避する。</p> <p>⑤<u>子どもたちが見学に来ることを楽しみにしていたこと等、エピソードを交え、まず保育者が顔見知りのお店の人にあいさつする。</u></p> <p>⑧<u>うれしそうな表情をする子どもの気持ちを受け止める。</u></p> <p>⑨会話を楽しむ姿を認めつつも騒がしくならないように声の大きさに気付かせる。</p> <p>⑪<u>様々な熊手の形や大きさに気付く姿に共感したり、保育者も気付いたことを言葉に出したりする。飾りの意味をお店の人に聞くなどして子どもたちに知らせていく。</u></p> <p>⑬興奮しすぎて勝手に行動してしまう子どもに対し、約束してきたことを思い出させ、自ら気付いていけるよう声掛けをする。</p> <p>⑭<u>感謝の気持ちを言葉で表せるように保育者が先にお礼を言う。</u></p> <p>⑯約束を守って帰ることを確認する。</p> <p>⑱楽しそうに話す子どもの気持ちを受け止めていく。</p> <p>⑳保護者に「西の市」見学時の子どもの様子を伝え「西の市」について話す</p>

重視する内容 地域財産等の活用

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 本物を知る経験を通して、地域に愛着をもてるようにする。
- 地域の方々に親しみをもてるよう、保育者が地域の方々にあいさつする姿を見るところを大切にしておく。
- 園外に出る場合は、交通ルールについて事前に話し、子どもたちが自分から気付いて守れるように配慮していく。

◆小学校につながる点

- 地域財産を活用し実際に触れ合うことで、地域への親しみの気持ちを育てることにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

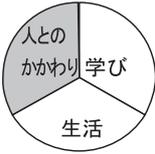
こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 地域財産等の活用（例）

「お祭りごっこをしよう」

5歳児 5月

《ねらい》

○地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への誇りや愛着をもつ。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

◎お祭りごっこを楽しみ、地域の行事への関心を高め親しみをもつ。

《活動の概要》

地域のお祭りの時期になり、昨年度の経験から、「お祭りごっこをしよう。」の声が高まる。たこやき屋さんや焼きそば屋さん、金魚すくい屋さんなどお店作りが始まる。数人の子どもは、おみこしを作ることになる。

【事前】

- ・地域のお祭りの写真を掲示しておく。
- ・自分の体験や絵本から、本物らしく作ろうと「おみこし」のイメージを膨らませる。
- ・「おみこし」の土台の上に屋根など作り、紙を貼る。

【当日】

- ・「おみこし」の飾りを作り、飾る。
- ・作った友達とできあがった「おみこし」を担ぐ。
- ・他の店をしている子どもたちで、担ぎたい友達が「おみこし」を担ぐ。

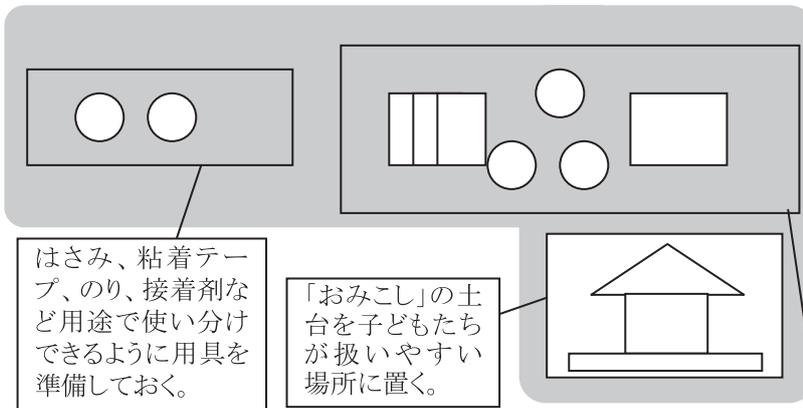
【事後】

- ・クラスみんなで交代しながら「おみこし」を担ぎ、近隣を練り歩く。

※参考:「祭りだ、わっしょい」(借成社)

構成・絵 沢田重隆 文 八代俊平

《環境》(保育室)



お店の様子



飾りつけの様子

子どもたちがイメージを実現しやすいようにいろいろな素材を用意しておく。(様々な色の紙、きらきらテープ、鈴、綱、空き箱 カップ、キャップ、スチロールのトレイ、毛糸、紐、割り箸、楊枝など)

それぞれのお店が、必要なものを作れる場所を確保するとともに、互いの取組の様子が見えやすいようにする。

降園時などにそれぞれの取組の様子を知らせ合う機会を作り、クラス全体でお祭りごっこを楽しめるようにする。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①登園後、紙を貼った「おみこし」や写真、絵本を見ながら、「今日は飾りだよね。」「金の鳥（鳳凰）を作らなきゃね。」などと話している。</p> <p>③絵本を見て、「綱に鈴が付いている。」「階段も作ったほうがいいよ。」などと気付いたことを話す。</p> <p>⑤作る飾りを決め、作り始める。</p> <p>⑥イメージどおりにできず苦労している姿もある。</p> <p>⑦「こうすれば？」などアイデアを出したり手伝ったりしている。</p> <p>⑨「登れるような階段を作りたい。」と言う。</p> <p>⑪段々と出来上がっていく「おみこし」を見て、口々に「できてきたね。」「本物みたい。」「この間見たおみこしに似てる。」と言う。</p> <p>⑬できあがり「やったー。」「できたね。」と喜ぶ。</p> <p>⑮できあがった「おみこし」を担ぎ、園内を練り歩く。</p> <p>⑰「担がせて。」とやって来た、他のお店の友達にも「おみこし」を担がせてあげる。掛け声を掛けながら、練り歩く。</p>	<p>②何を飾ろうか、「鈴も付いてるね。」などと子どもと一緒に写真や絵本を見ながら話す。</p> <p>④子どもの気付きを認め、何を飾るか話し合いイメージを共通にしていく。写真や絵本を参考に友達と話し合うよう働きかけ、作る飾りを決めていく。</p> <p>⑧子ども同士が自分の考えを伝えたり友達の考えを取り入れたりできるように、言葉掛けをする。必要に応じ、子どもがイメージを実現できる方法を一緒に考え、技術的な援助をしていく。</p> <p>⑩より本物らしく作りたいという子どもの気持ちを受け止め、「どうやったら階段になるかな？」などとアイデアを引き出す。場合によっては、保育者が方法を提案していく。</p> <p>⑫みんなが力を合わせて作っていることを認め、完成に近づいてきたことを一緒に喜ぶ。周りのお店の子どもたちにも様子を知らせる。 <u>自分たちの作る「おみこし」に誇りをもっている様子に共感する言葉掛けをする。</u></p> <p>⑭みんなで力を合わせて「おみこし」を作り上げたことを認め、完成を一緒に喜ぶ。</p> <p>⑯練り歩くときに使えるように拍子木や笛を提示する。</p>



重視する内容 地域財産等の活用

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

○地域の祭礼など地域の行事へ保育者は関心をもつようにし、地域のできごとや自然等を遊びに取り入れ、地域とのつながりを深めていく。

◆小学校につながる点

○地域財産を活用し本物に触れる経験をすることで、子どもの心を揺さぶり、考える力や物事を追求する力を育むことにつながる。

○身近な地域財産を活用することで、地域を愛する心が育つことにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の
芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣
の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 地域財産等の活用 (例)

「めぐりんすごろくで遊ぼう」

5歳児 1月

《ねらい》

○地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への誇りや愛着をもつ。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎「台東区郷土かるた」を通して地域の多彩な文化財産を知り、親しみをもつ。
- ◎自分の思いや考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、すごろく遊びに必要なルールを決めていこうとする。
- ◎文字や数に興味をもち、読んだり数えたりしながらすごろく遊びを楽しむ。

《活動の概要》

【事前】

- ・伝承遊びの一つとして日頃からかるた取りを楽しんでいる。「台東区郷土かるた」で遊んでみようとして投げ掛け、難しい言葉や知らない場所には簡単な説明を加えながら、クラス全体で遊ぶ。
- ・かるたの札を見て、「ここ知ってる。」「行ったことある。」など発見の声があがる。
- ・「台東区循環バス めぐりん」に乗って行ったことや車内で解説が流れることが話題になる。

「親子遠足で動物園に行ったね。」
「おかず横丁でおいしいのは『からあげ』と『コロッケ』です。」
「雷門には、神様がいるんだよ。」



「台東区郷土かるた」で地域の文化財産を知る

全部「めぐりん」で行けるね。

私たちの町には、こんなにたくさんさんの宝物があるんだね。

「めぐりん」を「こま」にすればいい。



「めぐりんすごろく」を作る

この地図を使ってすごろくができるよ。

- ・保育者が簡単な台東区の地図を作り、まず園の位置を知らせ、札にある場所はどこあたりか、子どもに聞いたりしながら書き入れていく。
- ・すごろく遊びの好きな子どもの発案に賛成し、すごろくを作ることになる。

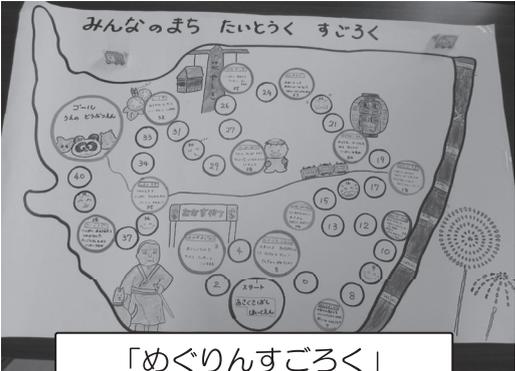
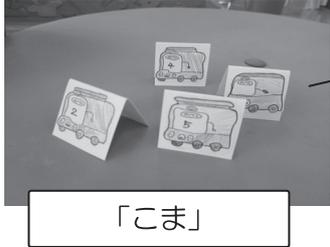
【当日】

- ・すごろくの「ます」にはいる言葉やルールをグループで話し合っ決めていく。
- ・保育者が地図の中に書き入れ、すごろくを作る。
- ・できあがったすごろくで遊ぶ。

《環境》

- ・「台東区郷土かるた」や「台東区循環バス めぐりんの地図」を用意しておき、子どもが自由に遊んだり見たりできるようにしておく。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①グループの友達と、かるたの絵札から知っている場所を出し合い、すごろくの「ます」にはいる言葉やルールを決めていく。 自分の思いや考えを言葉にして伝えたり、友達の意見について興味をもって聞いたりする。 『浅草はなやしき』で遊んで楽しかった。 →『ラッキー！！ 2こすすむ』 「鳥越のお祭りで金魚をすくったよ。」 →『きんぎょのまねをしよう』 「日本で初めての地下鉄「銀座線」だよ。」 →『浅草で「銀座線」に乗って上野まですすむ』 「隅田川で花火を見たよ。」 →『橋の名前をひとつ言ってみよう』</p> <p>④できあがったすごろくに色を付けていく。 行ったこと、見たことのある場所に友達と実際の色を教えあいながら、色鉛筆やパスなどで色を付ける。</p> <p>⑥「めぐりん」のこまを作りグループや友達と繰り返し楽しむ。 すごろくを楽しむ中で、止まった「ます」の数字と内容を各自が声を出して読み上げる。</p>  <p>「めぐりんすごろく」</p>	<p>②一人一人が思いを出し合って話し合いを進めているかを把握しながら、意見を出していない子どもには保育者が声掛けて一言ずつでも言えるようにしていく。 「行ったことはある？」 「どんなお店があったかな？」</p> <p>③子どもから出てきた意見を簡単な文字にして、見やすいように地図に書き入れていく。</p> <p>⑤身近な場所や知っていることなどに触れることで地域への関心を高め、その中で生活しているという実感がもてるような働きかけをしていく。</p>  <p>「こま」</p> <p>どんな「こま」にするかは子どもたちのアイデアを活かすようにする。</p> <p>⑦「ます」の中には内容に関連したイラストを入れるなど、文字や数字を読み上げるのが楽しくなるような工夫をする。</p> <p>⑧できあがったすごろくは使い方の約束をして自由に遊ぶことができるように保育室の所定の場所に置く。</p> <p>⑨さらにすごろくを作りたい子どもがいることを配慮し材料を用意しておく。</p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用

重視する内容 地域財産等の活用

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 行ったことのある場所、経験したことなどをクラスの友達の前で伝わるように話したり、友達の話を聞いたりする機会を設ける。
- 近隣の地域財産にクラスや園で行き共通の経験をしていく。家庭にも活動を伝える。

◆小学校につながる点

- 地域の様々な施設や文化に親しむきっかけとなる。
- 共通の目的に向けて友達と考えを出し合い進めていくことは、小学校での学び合いやコミュニケーション能力の向上につながる。

台東区幼児教育共通カリキュラム

ちいさな芽(実践編)

平成24年度登録 第78号

平成25年3月発行

台東区教育委員会

台東区立教育支援館

台東区西浅草3丁目25番16号

電話 03(5246)5921



本文に古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています